

2017年度氷河情報センター総会報告

雪氷研究大会(2017・十日町)において、氷河情報センター総会を開催した。総会では、活動の報告、役員改選および活動計画・方針の審議を行い、今後の氷河情報センターの運営に関して意見交換した。

日時:9月25日(月) 12:00 - 13:30

場所: クロステン十日町(2階 中ホール)

総会:

1. 2016-17年度活動報告

- 1) 雪氷研究大会(2016・名古屋)での総会
- 2) 氷河情報センターニュースNo.39「氷河観測情報」の編集・発行(「雪氷」79巻3号)
- 3) ホームページを通じた情報提供
- 4) ホームページの改訂
- 5) 氷河および氷河研究に関する問い合わせ対応
- 6) 2016年度会計は、予算、決算ともにゼロ

2. 役員改選

センター長、財務幹事、庶務幹事、広報幹事2名が任期満了を迎えた。センター長、財務幹事、庶務幹事、広報幹事2名は新任という役員改選案が承認された。結果、今年度の役員は以下の通りとなった。(下線が新任の役員)

センター長: 杉山慎

財務・会計幹事: 奈良間千之

庶務幹事: 縫村崇行

広報幹事: 阿部隆博, 大沼友貴彦, 榊原大貴

監事: 白岩孝行

3. 2017-18年度活動計画・方針

- 1) 氷河情報センターニュース「氷河観測情報」の編集・発行(「雪氷」への投稿、ホームページへの掲載)
- 2) 氷河情報センターHPの改訂
- 3) 雪氷研究大会(2018・札幌)での総会およびスペシャルセッション等の企画検討
- 4) 2017年度予算はゼロ

4. その他

今後の氷河情報センターの運営について、下記
の議題に関する意見交換が行われた。

- 1) 雪氷特集号の企画検討について
- 2) ホームページのサーバー更新に伴うコンテ
ンツの改訂について

「若手による氷河紀行」話題提供

1. 「ニュージーランド留学記」

畠瞳美氏（新潟大学）は2016年10月から翌年2
月にニュージーランド・カンタベリー大学へ留学
され、その様子が紹介された。留学先では山岳地
域の落石研究に取り組み、フォックス氷河での
現地観測やデータ解析を実施された。現地観測で
は同氷河周辺の登山道での落石の実態を把握する
ため、UAVによる空撮やGPS測量を実施された。研
究内容と合わせて、同国の国立公園での登山道管
理についても紹介がなされた。また、同氏が白馬
大雪渓で取り組まれている雪渓上のより安全な登
山道の提案についても紹介がなされた。同氏はそ
の取り組みを地域の関係者へ紹介するといったア
ウトリーチも積極的にされていた。

2. 「トランバウ氷河観測」

砂子宗次朗氏（名古屋大学）より2017年4月か
ら5月に実施されたネパール・トランバウ氷河の調
査の報告がされた。調査ではステークによる表面
質量収支観測や、GPS測量、UAVによる地形測量を
実施され、その様子が報告された。特にUAVによ
る地形測量は標高4000 mを超える標高域で実施
されていた。このような高標高域での実施例は非
常に少ないことから、その実績や課題といった貴
重な報告があった。調査以外でも同国の現状も
紹介された。この雪氷研究大会後の秋季にも同
地域で調査を実施される予定であることから、
今後も同氷河における研究の進展が期待される。

限られた時間のセッションではあったが、活
発な質疑応答があった。積極的に活動されてい
る大学院生から話を聞く機会を提供でき、有意
義なセッションとすることができた。今後も氷
河情報センターとして氷河研究に関連する情
報交換の場を提供していきたい。

文責： 榊原大貴 （北海道大学）